



心に思っただけのカードを一切の質問なしに当てる  
その後、さらなる驚きのシーンに直面する！

# Ben Harris' a THOUGHT well STOLEN

## ソートウエルストールン 〈読み取られた思考〉

### 日本語版

ベン・ハリス史上最高のマインドリーディング  
驚異の融合した2種のカードイフェクト

簡単、ほとんどセルフワーキング  
(基本的なカード・スキルのみ)



Copyright © 2015 by Ben Harris

著作権 2015年 ベン・ハリス

著者はこの作品の考案者としてみなされる権利を保有しています。

The Author asserts the moral right to be identified as the creator of this work.

All rights reserved.  
(Performance Rights Granted)

No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, the internet, or otherwise, without the prior permission of the author in writing.

Cover Art: Copyright © 1988 by Frantz Kantor. Used with permission.

すべての権利は保護されています。

著者による書面による許可なしに、本書の全部、もしくは一部でも電子的な装置、コピー、録画、インターネットなどのどんな方法を使った複製を禁止します。

The author would like to thank Steve Shufton and Michael Vincent for their inspiration, support, and unerring dedication to the creation of great magic. And, the talented illustrator/ animator, Frantz Kantor, for permission to use the wonderful piece of art he rendered for my 1988 *Australian Penthouse* feature—*Mind Bending Made Easy*. Chris Wasshuber (from Lybrary.com) is thanked for his continued support of all my magical writings, as is Sam from Feather Touch Magic, (Japan). Thank you all.

*この日本語版は、Ben Harris より日本語版としての権利を購入して  
(有)フェザータッチ MAGIC にて発行するものです。(2015/8/5)*

*日本語版 Copyright @ 2015 (有)フェザータッチ MAGIC*

# <目次>

はじめに	4
観客から見た現象	7
秘密と手順	11
演技の要約	17
<b>補足-1</b>	18
<b>補足-2</b>	19
可能性1	20
可能性2	20
1デッキ・バージョン	21
カモフラージュ	22
<b>補足-3</b>	
シャッフルとカット	23
終わりに	25

## はじめに

ここ何十年かの間、私は一組のカードを使ってマインドリーディングを完璧に現実のものとして見せることを追及してきました。カードとメンタリズムを愛するクロースアップの演技者の場合には、その効果としては(例えば)「客が心に思ったカードを、何も質問せずに又客も何も言わないという条件下で当ててみせる」といったものでしょう。

これを実現する、あるいは少しでもそれに近づけて見せることは、相手の客にとっても大きな驚きをもたらします。それは又観客の規模がどの位であろうとも、観客にもその驚きの効果を浸透させます。

何年にもわたり、私は(これを実現するための)やり方、手順をいろいろと考えて来ましたが、このA THOUGHT WELL STOLENのように単純明快なものはありませんでした。過去にはCROSSROADS や SILENT RUNNING、(スティーブ・シャフトンとの共作である)X-RAY といった、とても人気のあるものもありました。

これらはすべて客の心の中から思われたカードを効率的に引き出そうと試みて、大いに人々の興味を掻き立て、特に熱心な人やプロマジシャンは盛んに行ってきました。結果的にRUN SILENT RUN DEEP に発表・収録されたりチャード・ブッシュ、ジェイソン・メッシーナ、ヒロ・サカイ等によるバリエーションの多さを見てください。しかしながら、それらにおいては「客の思うカード」の選択には、巧妙であるにせよそうでないにせよ、常にある程度の制約があったのです。

心に思われるどんなカードでも、何も質問せず、何らかの形で探りを入れたりメンタルマジックのテクニックも使わずに当てること、この目的に関してA THOUGHT WELL STOLEN は100%明快であり、(選択を)制限するようなことはしません。全くしないのです。カードの選択の過程は極めてフェアなものです。

「あなたにはお気に入りのカードがありますか？」とマジシャンは聞きます。

「ええ、ありますよ」と客が答えます。

「それは良かった。それを私に言わないでください。カードの名前は秘密にしておいてくださいね、いいですか？」

マジシャンは念を押します。

これ以上のフェアなアプローチがあるでしょうか？私は無いと思います。

私はこのアプローチをスタートするにあたって興奮していますし、あなたにも又楽しんでいただきたいと思っています。

後ほど解説の中で、あなたにはデッキを手に持って客の役をやりながら私に付き合ってもらいます。その目的はこのアプローチのフェアさと簡明さをあなたに確認してもらうためです。「マジックはただ一つの場所で起きる。それは客の頭の中だ」(訳注:トニー・スライディーニの言葉。どんなに単純なマジックでも客がびっくりすればそれで良い。すべては客がどう見てくれるか、感じてくれるかだ)。

あなたにもそのことを(このマジックを通じて)感じ取って欲しいのです。

ここでこのマジックの性格を簡単にみましょう。

大まかに言うと、A THOUGHT WELL STOLEN は二つのクラシック・カードマジックの混ざり合った

ようなものということが出来ます。 ANY CARD AT ANY NUMBER とポール・カリーの素晴らしい OUT OF THIS WORLD です。

デビッド・バーグラスに端を発する最初のエフェクトは、長く華麗な歴史を持っており、それを演じるマジシャンの数と同じくらい様々な多くのやり方が考えられて来ました。最善の効果は、カードを全く自由に選ばせ、また1～52の好きな数字を言わせるものです。自由に選ばれたカードが、自由に選ばれた枚数から出現するというのは本当にびっくりする、不可思議な現象です。A THOUGHT WELL STOLEN ではある特定の枚数目にある自由に選ばれたカードを当てて見せますが、そのカードはたんに心に思っただけのカードなのです。

ポール・カリーの OUT OF THIS WORLD が古典的傑作である事は誰も否定しないでしょう。簡単明瞭な手順構成と皆が満足する驚くべきビジュアルなクライマックスを兼ね備えています。最後に不思議にも黒と赤のカードが分かれているのを見るのは、まるでどこからともなく現れたクジャクが羽を広げたような美しさです。A THOUGHT WELL STOLEN にもポール・カリーのエフェクトに匹敵するような強力なビジュアル・クライマックスがあります。それは間違いなく客を驚かせ、圧倒するでしょう。A THOUGHT WELL STOLEN は間違いなく両者の要素を併せ持っているマジックです。

A THOUGHT WELL STOLEN は一組のカードを扱うテクニックの印象的なデモンストレーションとして創られました。あなたを、単に心に思われただけのカードをカットやシャフルをしながらコントロールして当ててしまうという、マインドリーディングの力も兼ね備えた偉大なるカーディシャンと思わせるべく考えられたものです。

またこれはクローズアップでもステージでも演じることが出来ます。私自身は、二組のデッキとテーブルと一人の客で出来るステージでの演技が好きです(一組のデッキで行うやり方も後で解説します)。何のギミックも使わない簡単な物ですが、その秘密は十分に織り合わされた演出と手順の中にうまく隠されているのです。

A THOUGHT WELL STOLEN にはマインドリーディングとカードを扱うテクニックのデモンストレーションという二つの要素がありますが、私はマインドリーディングよりも(特定のカードをコントロールするという)カード・テクニックの方に重点を置いて演技したいと思っています。客からみた演技の結末は本当に底知れない謎と言えるでしょう。

さてここで前述したように、あなたにカードを持ってもらって二人でおしゃべりする形でこのエフェクトの流れをみましょう。

(訳注: 以下は、解説に変化を付けるためか、BEN HARRIS と友人が日差しを避けて木陰に座り、このエフェクトについておしゃべりするといった設定で書かれています。ここでは原文のスタイルに合わせて訳しておきます)

「君にはまず客としてこのエフェクトのスタート時点に立ってもらおう。そのためにはまずデッキを手にとって始めよう。君もマジシャンなのでカードの事は良く知っているだろうが、客が見て普通の状態でなければいけないので、A や K がかたまっていたり、裏向きカードが無いか、52 枚そろっているかなどチェックして欲しい。済んだらデッキを軽く混ぜてテーブル

に裏向きに置いてもらう。出来たかい？

念のため誰にもカードの順番が判らないようにもう一度カットしてもいい。ごまかしは無しだ。ボトムカードをピークしたりしないでよ。これが一般の観客が経験するスタート地点だ。私はカードには触らないよ。さて好きなカードを1枚心に思ってもらうのだが、君もマジシャンなら何かお気に入りのカードがあるのではないかい？そのカードでも良いし、それ以外のカードでも良い。

マジックの世界でそう多くない100%のフリーチョイスが出来るのだよ。」

「カードを決めたかい？ではデッキを取り上げて左手に裏向きで持って、デッキのトップからカードを1枚ずつテーブルに表向きにして配り出して行って欲しい。その時に声に出して1から52までカードを数えて行って欲しいのだ。そのカウントの中で自分の思ったカードが出て来た枚数を覚えてもらうのだ。ただ決して私とそのカードや、そのカードの位置を探る手掛かりになるような動作はしないで欲しい。(訳注:演技の流れの説明のために友人に配らせていますが、実際の演技ではマジシャンが配るようにしています)。

(それが終わると)今君の前には表向きの一山のカードがあり、自分の秘密のカードがその中の何枚目にあるかを君は知っている。それは33枚目かもしれないし、14枚目かもしれない。君以外の誰にも判らない。君自身が事前にカードの順番を混ぜたことで、そのカードの位置が決定されたわけだ。そうだね？

君だけが秘密のカードが何なのか知っている。

君だけがデッキの中のそのカードの位置を知っている。

間違いないね？」

「さてデッキを又裏向きにして君の前に置いて欲しい。私は触らないよ。さてここでよく考えてみて欲しい。マジシャンは心に思われたカードが何か全く知りようがない。またそのカードがデッキの何処にあるかを知る手がかりも全くないのだ。にもかかわらず、マジシャンは何の質問をすることなく、またデッキにさわることなく両方を当ててみせるのだよ。君の前のデッキを見つめて、「どうしたらそれが出来るか」を考えてみて欲しい。やったことに何も怪しい所はなくフェアだよね？」

いかがでしょうか？どうしたらカードの名前と位置を知る事が出来るかを説明する前に、エフェクト全体の効果を確認しておきましょう。効果としては2段階となります。

1番目は客の心を読んで客の思ったカードとそのデッキの中の位置を当てるマインドリーディングの効果、

2番目は気まぐれに選ばれたどのカードでも取り出せるあなたのテクニックを証明する効果です。それはとてもビジュアルなもので、適切に演じればスタンディング・オベーションをも引き起こすでしょう。それではこのエフェクトが実際にどのように行われるかを順を追って見て行きましょう。

~~~~~以下割愛~~~~~

マジシャンはテレパシーの力により客のカードを当てただけではなく、それをカットにより客のカードと同じ位置にもっていくというテクニックを見せたのです！

考えてみてください。何の質問もしないで客の心を読み取った、つまり客の頭の中から客のお気に入りのカードの名前を引き出してきたのです。これはカードを扱う見事な名人芸と一体となった身近なマインドリーディングの不思議且つ楽しいデモンストレーションと言えるでしょう。



~~~~~以下割愛~~~~~

## 終わりに

皆さんが、この A THOUGHT WELL STOLEN に内在するテクニックとアプローチ両面にわたる可能性について解説をお読みにになり、楽しんでいただけたことと願っています。

これは基となったエフェクトの強力さを取り入れつつ生まれた本当に面白いものだと思います。  
(同じ親から生まれた子でも)すべての子どもが少しずつ違うように、このエフェクトもまだまだ違う形  
が有り得ると思うので、ご自分のやり方を探ってみてください。

面白いアイデアがあれば私のフェイスブックでディスカッションしませんか？

[www.facebook.com/bc.harris.7](http://www.facebook.com/bc.harris.7)

—以上—

# THOUGHT WELL STOLEN

By Ben Harris

「ソート・ウエル・ストールン」

翻訳： 平賀 義達

編集：(有) フェザータッチ MAGIC

★ 本解説書は、Ben Harris の「A THOUGHT WELL STOLEN」(2015年発行)の日本語版です。本人との契約により特別に日本語版の全権利を受け発行するものです。  
(2015/08/05 権利獲得)

★ この日本語版の全てのコンテンツ(情報・資料・画像等)の著作権は、フェザータッチ  
MAGICが所有します。一部、全部を問わず、無断でのコピーはもちろん、いかなる  
手段での転記、転載(電子メールを含む)販売等の二次使用は一切禁止します。

日本語版解説書©2015 FTM: *Feather Touch Magic Inc.*

販売：(有) フェザータッチ MAGIC

[www.FTMagic.JP](http://www.FTMagic.JP)



フェイスブック：[www.facebook.com/ftmagic](http://www.facebook.com/ftmagic)

(新製品情報、特別セール情報等はこちら Facebook でチェック)

